

教育シラバス

syllabus

(授業計画)

救急救命学科

学校法人 阿弥陀寺教育学園

国際医療福祉専門学校七尾校

実務経験のある教員等による授業科目一覧

医療専門課程 救急救命学科 (昼間3年制)

国際医療福祉専門学校七尾校

分野	教育内容	授業科目	必修・選択	実務経験教員	講義単位	時間	1 学年		2 学年		3 学年		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎	基礎数学	必修	高等学校教諭	1	15	15						
		情報科学	必修		2	30	30						
		運動科学	必修	高等学校教諭	2	30	30						
		運動科学実習	必修	高等学校教諭	1	30	30						
	人間と人間生活 (8)	生命倫理学	必修	介護福祉士	1	15	15						
		心理学入門	必修		1	15	15						
		教育学	必修	高等学校教諭	1	15	15						
		英語会話	必修	高等学校教諭	2	30	30						
		医学英語	必修		1	15		15					
		就職対策講座 I	必修		2	30		30					
		就職対策講座 II	必修		2	30			30				
		公務員試験対策講座 I	必修		2	30				30			
	公務員試験対策講座 II	必修		4	60					60			
基礎分野小計 (8)					22	345	180	45	30	30	60	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能 (4)	解剖学	必修	博士 (保健学)	2	30	30						
		生理学	必修	博士 (保健学)	2	30		30					
	小 計 (4)					4	60	30	30	0	0	0	0
	疾病の成り立ちと回復の課程 (4)	検査学	必修	専任教員	1	15					15		
		病理学	必修	博士 (保健学)	2	30			30				
		薬理学	必修	薬剤師 (病院勤務)	2	30			30				
		感染症学	必修	専任教員	1	15					15		
	小 計 (4)					6	90	0	0	60	30	0	0
	健康と社会保障 (2)	公衆衛生学	必修	博士 (法務)	1	15		15					
		保健医療福祉概論	必修	博士 (法務)	1	15		15					
小 計 (2)					2	30	0	30	0	0	0	0	
専門基礎分野小計 (10)					12	180	30	60	60	30	0	0	
専門分野	救急医学概論 (6)	救急医学概論 I	必修	専任教員	2	60		60					
		救急医学概論 II	必修	専任教員	2	60	60						
		救急医学概論 III	必修	専任教員	2	60			60				
		救急医学特論	必修	専任教員	2	60						60	
		小 計 (6)					8	240	60	60	60	0	0
	救急症候・病態生理学 (8)	救急症候・病態生理学 I	必修	専任教員	2	60		60					
		救急症候・病態生理学 II	必修	専任教員	1	30		30					
		救急症候・病態生理学 III	必修	専任教員	2	60			60				
		救急症候・病態生理学 IV	必修	専任教員	2	60				60			
		救急症候・病態生理学特論	必修		2	60						60	
	小 計 (8)					9	270	0	90	60	60	0	60
	疾病救急医学 (8)	内部障害学	必修	医師 (病院勤務)	1	15			15				
		発達障害学	必修	専任教員	1	15			15				
		精神障害学	必修	医師 (病院勤務)	1	15			15				
		骨関節障害学	必修	医師 (病院勤務)	1	15			15				
		神経筋障害学	必修	医師 (病院勤務)	1	15			15				
		疾病救急医学特論	必修	医師 (病院勤務)	4	60			60				
		小 計 (8)					6	135	0	0	135	0	0
	外傷救急医学 (4)	外傷救急医学 I	必修	専任教員	2	60			60				
		外傷救急医学 II	必修	専任教員	1	30			30				
		外傷救急医学 III	必修	専任教員	1	30			30				
		外傷救急医学特論	必修	専任教員	2	60						60	
	小 計 (4)					6	180	0	60	60	0	0	60
	環境障害・急性中毒学 (1)	環境障害・急性中毒学	必修	専任教員	1	30				30			
	小 計 (1)					1	30	0	0	0	30	0	0
	臨地実習 (25)	基礎演習	必修	専任教員	1	45	45						
		応急処置 I	必修	専任教員	2	90	90						
		応急処置 II	必修	専任教員	2	90		90					
救急救命処置 I		必修	専任教員	2	90			90					
救急救命処置 II		必修	専任教員	2	90				90				
救急車同乗見学実習		必修	救急救命士 (消防等勤務)	1	45		45						
救急車同乗体験実習		必修	救急救命士 (消防等勤務)	1	45				45				
救急車シミュレーション実習		必修	専任教員	3	135						135		
臨床見学実習		必修	救急救命士/看護師 (病院等勤務)	2	90				90				
臨床体験実習		必修	救急救命士/看護師 (病院等勤務)	3	135						135		
総合シミュレーション実習 I		必修	専任教員	2	90						90		
総合シミュレーション実習 II		必修	専任教員	2	90						90		
総合シミュレーション実習 III		必修	専任教員	2	90						90		
小 計 (25)					25	1125	135	135	90	225	315	225	
専門分野小計 (52)					58	1980	195	345	405	315	315	405	
総合計 (70)					92	2505	405	450	495	375	375	405	
学年合計							855		870		780		

() は指定規則で定められた単位数 講義1単位: 15時間または30時間 学内演習・実習1単位: 45時間 臨地実習1単位: 45時間

	全体			実務経験のある教員等による授業科目		
	総数	講義	実習	総数	講義	実習
科目数	54	36	18	46	26	18
単位数	92	60	32	74	42	32
授業時間数	2505	1200	1305	2205	870	1335

科目名	基礎数学	担当教員	中村 重律	連絡先
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 前期	1単位 15時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
計算：SPIの理解（割合・割引、速度算）				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時資料を配布する。 つながる高校数学 ベレ出版 参考書： 新しい数学2・3 東京書籍 数学Ⅱ 数研出版			100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。その他、授業態度、出席率、課題レポートも考慮した総合的判断により単位認定を行なう。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	損益数		<ul style="list-style-type: none"> ・課題プリントを実施。 ・課題を解き、誤答箇所を自ら直す。 ・計算の学力の把握及び向上。 	中村 重律
2	分割払い			
3	料金割引・料金精算			
4	数学	速度・割合		
5	集合・仕事算			
6	順列・組合せ			
7	確立			
8	まとめ			

科目名	情報科学	担当 教員	玉村 豊和	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>基本的なパソコンの設定から電子メール、ワープロ、表計算、プレゼン等のアプリケーションソフトの使い方を学び、電子カルテの基本的な操作まで学ぶ。すでに使用してある程度使いこなしている学生もいると思うが、我流で使っている場合が多く、データを扱う上でのマナーを無視している場合が多い。基本的なマナーを確認しながら授業を進める。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 教材を適宜配布する。</p> <p>参考書：</p>			<p>学則に従う。出席率や授業中の態度も考慮して総合的に評価する。定期試験には実際にパソコンを操作する実技試験も含まれる。</p>	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	オリエンテーション パソコンの基本設定（ネットの設定）		<p>ノートパソコンを持参し、各自が実際にパソコンを操作しながら各学習課題について講義形式で行う。</p>	玉村 豊和
2	パソコンの基本設定（LAN設定、ウイルス対策）			
3	パソコンの基本設定（メール設定）			
4	インターネット犯罪			
5	ワードの基本操作①			
6	ワードの基本操作②			
7	ワードの基本操作③			
8	ワードのまとめ①			
9	ワードのまとめ②			
10	ワードのまとめ③			
11	エクセルの基本操作①			
12	エクセルのまとめ			
13	パワーポイントの基本操作①			
14	パワーポイントの基本操作②			
15	パワーポイントのまとめ			

科目名	運動科学	担当 教員	井上 明浩	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	実習			
講義の概要				
人間にとって運動の必要性和スポーツがからだに働きかけてその能力を考えていく知識、方法等を科学的な事実を通して学んでいく。また、障害者に対するスポーツ指導の基礎知識を学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 教材を適宜配布する。 参考書：			出席率や課題レポート等を考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	文化としてのスポーツ①		各学習課題について講義および実技を取り入れて行う。	井上 明浩
2	文化としてのスポーツ②			
3	障害者スポーツの意義と理念①			
4	障害者スポーツの意義と理念②			
5	障害者福祉施策と障害者スポーツ①			
6	障害者福祉施策と障害者スポーツ②			
7	障害者スポーツにおける安全管理			
8	公益財団法人日本障害者スポーツ協会公認 障害者スポーツ指導者制度			
9	全国障害者スポーツ大会の概要			
10	障害の理解とスポーツ（身体障害）			
11	障害の理解とスポーツ（内部障害）			
12	障害の理解とスポーツ（知的障害）			
13	障害の理解とスポーツ（精神障害）			
14	障害の理解とスポーツ（高齢者）			
15	まとめ			

科目名	運動科学実習	担当教員	井上 明浩	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	1単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
人間にとって運動の必要性和スポーツがからだに働きかけてその能力を考えていく知識、方法等を科学的な事実を通して学んでいく。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 教材を適宜配布する。 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	スポーツとは		各学習課題について講義形式および実技を取り入れて行う。	井上 明浩
2	スポーツの意味			
3	からだの動く仕組み			
4	運動をした時の変化			
5	自己管理			
6	スポーツの意味選択			
7	うまさと強さ			
8	トレーニングの考え方			
9	体力アップ			
10	スキルアップの方法 (1)			
11	スキルアップの方法 (2)			
12	基本的なスポーツのスキルポイント (1)			
13	基本的なスポーツのスキルポイント (2)			
14	運動における休養、栄養について			
15	まとめ			

科目名	生命倫理学	担当 教員	高名 祐美	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 前期	1単位 15時間			
講義の概要				
人間としての価値を学び考え、社会を構成する一人として正しく生活することができる。 また、職業人としての在り方、規範を学び誇り高く専門職として社会に貢献することができる。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 資料を随時配布 参考書：			100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。その他、授業態度、出席率、課題レポートも考慮した総合的判断により単位認定を行なう。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	倫理とは 人権と倫理その定義と歴史		各学習課題についてPCプレゼンテーション及びビデオなどによる講義形式で行う。	高名 祐美
2	患者の権利と生命倫理 生殖医療			
3	患者の権利と生命倫理 脳死・臓器移植			
4	患者の権利と生命倫理 終末期医療			
5	インフォームド・コンセントと意思決定の支援			
6	医療者－患者関係におけるコミュニケーション			
7	患者中心の医療とチーム医療			
8	まとめ			

科目名	英語会話	担当 教員	栗林 潤	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>様々なテーマについて、賛成、反対の英語表現を学ぶとともに、自分の意見をまとめ、相手の意見を理解する練習を通して、ディスカッションやディベートができるようにする。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時資料を配布する。 参考書：			レポート、記述試験、ならびに授業の出席率、参加態度により総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	自己紹介・授業流れ・評価説明	各自、できる限り英語を用いて自己紹介をする。英語文章の作成、発音、会話練習	栗林 潤	
2	自己紹介 英語文章の作成、発音、会話練習			
3	国・文化紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
4	県の紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
5	目標の紹介 英語文章の作成、発音、会話練習	英語文章の作成、発音、会話練習		
6	1回～5回までのSpeaking Test	Speaking Test		
7	飛行場での入国の英語	動画視聴、グループSpeaking		
8	ホテルでのチェックインの英語	グループSpeaking+筆記		
9	レストランでの注文、会計時の英語	グループSpeaking+筆記		
10	買い物での注文、サイズ確認などの英語	グループSpeaking+筆記		
11	人が具合が悪い時に使う英語	グループSpeaking+筆記		
12	8回～11回までの復習	グループSpeaking+筆記		
13	「映画」により英語を楽しく学ぶ過程を知る	海外の映画を鑑賞して英語に関連するレポートを作成。		
14	まとめと復習	定期試験を含める 【面接形式Speaking】		
15	まとめと復習	定期試験を含める 【面接形式Speaking】		

科目名	医学英語	担当 教員	由久保 弘明	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 後期	1単位 15時間			
講義の概要				
臨床で使われている医学用語を学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 教材を適宜配布する。 参考書：			マーク試験（80%）＋小テスト（10%）＋ノート（10%） 合格基準：得点率60%以上	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	身体、診療科、専門職種の名義について		各学習課題について配布資料を中心に講義形式で行う。	由久保 弘明
2	骨格、関節の運動方向の名義について			
3	医学用語の成立ちの法則			
4	問診について			
5	医学専門用語、略語について			
6	疾患名、障害名について①			
7	疾患名、障害名について②			
8	医療器具の名義について			

科目名	就職対策講座 I	担当 教員	専任教員	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	15コマ 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
<p>就職活動時に必要な履歴書の書き方や面接試験の対策を行う。 救急救命士についての職業理解を深め、自分の将来像を具体的にイメージできるようにする。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
特になし			小論文と模擬面接、出席率等を考慮して総合的に判断する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	職業理解と将来像		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	専任教員
2	職業意識を身につける			
3	就職希望調査と施設情報の集め方			
4	求人票の見方から応募書類の発送まで			
5	履歴書・エントリーシートの書き方①			
6	履歴書・エントリーシートの書き方②			
7	履歴書・エントリーシートの書き方③			
8	ビジネスマナー・身だしなみ講座①			
9	ビジネスマナー・身だしなみ講座②			
10	小論文の書き方①			
11	小論文の書き方②			
12	小論文の書き方③			
13	面接対策講座①			
14	面接対策講座②			
15	面接対策講座③			

科目名	就職対策講座Ⅱ	担当 教員	笠間 悟	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	2単位 30時間			
公務員試験に向けて着実に実力が付くよう概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出版） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（TAC出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	数的推理		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	笠間 悟
2	数的推理			
3	数的推理			
4	数的推理			
5	数的推理			
6	数的推理			
7	判断推理			
8	判断推理			
9	判断推理			
10	判断推理			
11	判断推理			
12	判断推理			
13	まとめ			
14	作文			
15	作文			

科目名	公務員試験対策講座 I	担当教員	中村 重律	連絡先
				教員室
対象学年	単位数	質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 後期	2単位 30時間			
講義の概要				
最近の出題傾向を中心に地方初級試験に的を絞り着実に実力が付くよう概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出版） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（T A C 出版）			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	数的推理		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	中村 重律
2	数的推理			
3	数的推理			
4	数的推理			
5	数的推理			
6	数的推理			
7	判断推理			
8	判断推理			
9	判断推理			
10	判断推理			
11	判断推理			
12	判断推理			
13	まとめ			
14	作文			
15	作文			

科目名	公務員試験対策講座Ⅱ		担当 教員	非常勤講師	連絡先
					教員室
対象学年	単位数			質問受付時間・場所等 随時・教員室	
3年次 前期	4単位	60時間			
講義の概要					
最近の出題傾向を中心に地方初級試験に的を絞り着実に実力が付くよう概説する。					
教科書、教材等				成績評価の方法	
教科書： 地方初級教養試験過去門350（実務教育出） 参考書： 地方公務員初級模擬試験（T A C 出版）				教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名
1	文書理解Ⅰ	16	数学Ⅰ	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。 1. 左記以外に公務員模試を10回実施	非常勤講師
2	文書理解Ⅱ	17	数学Ⅱ		
3	判断推理Ⅰ	18	数学Ⅲ		
4	判断推理Ⅱ	19	物理Ⅰ		
5	判断推理Ⅲ	20	物理Ⅱ		
6	判断推理Ⅳ	21	物理Ⅲ		
7	数的推理Ⅰ	22	化学Ⅰ		
8	数的推理Ⅱ	23	化学Ⅱ		
9	数的推理Ⅲ	24	化学Ⅲ		
10	数的推理Ⅳ	25	生物Ⅰ		
11	資料解釈Ⅰ	26	生物Ⅱ		
12	資料解釈Ⅱ	27	生物Ⅲ		
13	模擬試験Ⅰ	28	地学Ⅰ		
14	模擬試験Ⅱ	29	地学Ⅱ		
15	まとめ	30	まとめ		

科目名	解剖学	担当 教員	由久保弘明	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 前期	2単位 30時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>神経学、内臓学、感覚器を中心とした身体の構造を学ぶ。 随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト (へるす出版)</p> <p>参考書：</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題 レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>	
回数	学習課題	講義形式	教員名	
1	人体の大要と解剖学用語	各学習課題についてPCプレゼン テーションなどによる講義形式 で行う。	由久保弘明	
2				
3	人体の構成			
4				
5	内臓学（呼吸器系・循環器系を除く）			
6				
7				
8	感覚器系			
9				
10	循環器系（1）			
11	呼吸器系（1）			
12	筋骨格系（総論）			
13				
14	神経系（総論） 神経系区分、構成、脳、脊髄、意識、伝導、反 射			
15				
	まとめ			

科目名	生理学	担当 教員	由久保弘明	連絡先	
対象学年	単位数			教員室	
1年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義				
講義の概要					
救急処置に必要な生理学の基礎知識を学ぶ					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		講義形式	教員名	
1	消化と吸収			由久保弘明	
2					
3					
4	腎臓と排泄				
5					
6	酸－塩基平衡				
7	内分泌				
8	性と生殖				
9	感覚				
10					
11	循環器系				
12	呼吸器系				
13	筋の収縮				
14					
15	神経の興奮伝導と末梢神経				
16					
17	末梢神経系（脳神経）				
18					
19	末梢神経系（自律神経）				
20	まとめ				

科目名	病理学	担当教員	由久保弘明	連絡先
対象学年	単位数			教員室
2年次 前期	2単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学（医学書院）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	病理学の概要、病因論		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	由久保弘明
2	代謝異常、退行性病変			
3	循環障害			
4	免疫、炎症・感染症			
5	腫瘍			
6	放射線障害、老化、先天異常・奇形			
7	循環器			
8	呼吸器			
9	消化管			
10	神経系			
11	運動器			
12	泌尿・生殖器			
13	内分泌臓器、皮膚・感覚器			
14	造血器			
15	まとめ			

科目名	薬理学	担当 教員	多嶋 勇	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	2単位 30時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
<p>薬理学の主たる目的は、薬物作用、作用機序、治療的応用性などを明らかにすることによって、薬物治療における適切な医薬品の選択、適正な用法の基礎を理解すること。</p>				
			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト (へるす出版) 参考書：			教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	薬理学の定義	各学習課題について、スライドを中心に講義形式で行う。		多嶋 勇
2	薬の投与経路			
3	生物学的半減期			
4	薬物に影響する因子			
5	薬物中毒			
6	薬の作用点			
7	薬の管理と新薬の誕生			
8	中間試験			
9	救急救命処置に用いる薬剤(拡大2項目)			
10	注意を要する薬剤①			
11	注意を要する薬剤②			
12	輸液・輸血製剤①			
13	輸液・輸血製剤②			
14	保存と管理			
15	まとめ			

科目名		救急医学概論 I		担当 教員	非常勤講師 (松林)	連絡先	
対象学年		単位数			教員室		
1年次	後期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態		講義					
講義の概要							
生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。							
教科書、教材等				成績評価の方法			
教科 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P.15～16、 書： 218～297 参考 救急活動マネジメント実践トレーニング—OSCEを取り入れた救急 書： 隊員臨床教育（メディカ出版）				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名		
1	救急救命士の職業倫理P.15～17 救急医療体制①救急業務の沿革～救急医療を構成する体制 P.218～220	16	救急救命士に関連する法令① 法令の基本・医師法・保健師 助産師看護師法 P.260～ 261・264	各学習課題について教科書や参考書を中心に、PCプレゼンテーションによる講義や実技形式で講義を行い、グループ内でのOSCE（客観的臨床能力試験）を取り入れ実施する。。	非常勤講師 (松林)		
2	救急医療体制②病院前救護体制 P.220～224	17	救急救命士に関連する法令② 救急救命士法 P.261～264				
3	救急医療体制③救急業務の沿革～病院前救護体制 P.225～228	18	救急救命士に関連する法令③ 消防法 P.264～267				
4	救急医療体制④メディカルコントロール P.228～231	19	救急救命士に関連する法令④ その他の法令 P.267～270				
5	災害医療体制①災害の概念・多数傷病者対応 P.232～237	20	救急救命士の生涯教育①生涯教育・自己研鑽 P.271				
6	災害医療体制②トリアージ P.237～238	21	救急救命士の生涯教育②病院 実習～ワークステーション P.271～275				
7	災害医療体制③大規模災害 P.238～243	22	安全管理と事故対応①目的～ インシデント・アクシデント への対応 P.276～277				
8	災害医療体制④特殊災害 P.243～244	23	安全管理と事故対応②救急活動で生じた事故への対応 P.277～280				
9	消防機関における救急活動の流れ①(119番通報受診と通信体制～現場活動) P.245～248	24	安全管理と事故対応③訴訟と 対応～事故の報告と対応 P.280～281				
10	消防機関における救急活動の流れ②現場活動(初期評価～) P.248～250	25	感染対策①感染予防策と感染 防御 P.282～284				
11	消防機関における救急活動の流れ②現場活動(初期評価～) P.248～250	26	感染対策③救急活動での感染 防御 P.284～286				
12	消防機関における救急活動の流れ③通信体制・他との連携 P.250～252	27	感染対策③消毒と洗浄 P.286 ～290				
13	救急活動時のコミュニケーション①接遇～対応に応じたコミュニケーション P.253～256	28	感染対策④感染事故と事故後の 対応 P.290～293				
14	救急活動時のコミュニケーション②活動での説明～人生の最終段階の者への対応 P.256～259	29	ストレスに対するマネージメント P.294～297				
15	第1回～14回までのまとめ	30	第16回～29回までのまとめ				

科目名	救急医学概論Ⅱ		担当教員	花田 邦和	連絡先	
対象学年	単位数				教員室	
1年次 前期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義					
講義の概要						
傷病者管理における、観察能力の基礎を学ぶ。救急救命士として必要な知識を習得し、傷病者管理の際に必要な、考察能力の向上を目指す。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）P. 300～343, 429～449 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名		
1	観察総論①目的と意義～バイタルサイン P. 300	16	緊急度・重症度判断①緊急度と重症度とは？その分類 P. 327～328	各学習課題について教科書を中心に講義形式及び実習で行う。講義終了後レポート提出を行う。	花田 邦和	
2	観察総論②観察の方法 P. 300～303	17	緊急度・重症度判断②判断基準 P. 328～331			
3	全身状態の観察①外見の観察 P. 304-305	18	資器材による観察①パルスオキシメータと体温計 P. 332-333・340-341			
4	全身状態の観察②気道・呼吸に関する観察 P. 305-307	19	資器材による観察③聴診器と血圧計 P. 335-337			
5	全身状態の観察③循環に関する観察 P. 307-310	20	資器材による観察④心電図モニター P. 337-340			
6	全身状態の観察④意識状態に関する観察 P. 310-311	21	体位管理 P. 394-398			
7	局所の観察①観察結果の表現～皮膚 P. 312-314	22	体温管理 P. 398-399			
8	局所の観察②頭部・顔面・頸部 P. 314-316	23	止血 P. 398-402			
9	局所の観察③胸部・背部 P. 316-317	24	創傷処置 P. 402-405			
10	局所の観察④腹部 P. 317-319	25	固定①種類～骨盤骨折の固定 P. 405-418			
11	局所の観察⑤鼠径部～手指・足趾・爪 P. 319-321	26	固定②SMR～注意点 P. 418-415			
12	局所の観察⑥各種病態のアルゴリズム P. 321	27	傷病者搬送①搬送総論 P. 436-438			
13	神経所見の観察①運動機能・感覚 P. 322～324	28	傷病者搬送②搬送方法 P. 438-444			
14	神経所見の観察②髄膜刺激症候～観察方法 P. 324～326	29	傷病者搬送③搬送手順 P. 444-447			
15	第1回～14回までのまとめ	30	第16回～29回までのまとめ			

☆…専任教員による授業科目

科目名		救急医学概論Ⅲ		担当 教員	非常勤講師 (清水)	連絡先
対象学年		単位数				教員室
2年次	前期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態		講義				
講義の概要						
傷病者管理における、各種処置の基礎を学ぶ。救急救命士として必要な知識を習得し、傷病者管理の際に必要な、各種処置の知識向上を目指す。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P. 344～427、673-675 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者）				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名	
1	処置の目的と意義・気道確保 P. 345-348	16	静脈路確保と輸液②資器材の準備～注意点 P. 383～388		非常勤講師 (清水)	
2	酸素投与 P. 368～372	17	アドレナリン投与①心臓機能停止傷病者に対する投与 P. 388～391			
3	人工呼吸 P. 372-375	18	アドレナリン投与②アナフィラキシー傷病者に対する投与 P. 388～391			
4	胸骨圧迫・自動式心マッサージ器 P. 376-379	19	資器材による観察⑤血糖測定器 P. 341-343			
5	電気ショック P. 379-383	20	ブドウ糖の投与①目的～プロトコール P. 392～394			
6	気道異物除去・口腔内の吸引 P. 348-351	21	ブドウ糖の投与②資器材の準備～注意点 P. 392～394			
7	声門上気道デバイスを用いた気道確保①目的～プロトコール P. 351-352	22	在宅療法継続中の傷病者の処置①在宅医療とは～呼吸補助療法 P. 429-431			
8	声門上気道デバイスを用いた気道確保②LM・アイジェル P. 352-354	23	在宅療法継続中の傷病者の処置 ②栄養補助療法～ P. 429～434			
9	声門上気道デバイスを用いた気道確保③LT・コンビチューブ・WB P. 352-354	24	在宅療法継続中の傷病者の処置 ②栄養補助療法～ P. 429～434			
10	気管挿管①目的～プロトコール P. 358-359	25	産婦人科領域の処置①目的～注意点 P. 415-418			
11	気管挿管②資器材の準備～挿管困難症例 P. 359-364	26	産婦人科領域の処置①新生児の観察と処置 P. 673-675			
12	資器材による観察②カプノメータ P. 333-334	27	救急蘇生法①概要～成人に対する救急蘇生法 P. 419-425			
13	気管挿管③ビデオ硬性喉頭鏡～気管内吸引 P. 364-368	28	救急蘇生法②小児に対する救急蘇生法～			
14	第1回～13までのまとめ	29	傷病者搬送④ヘリコプターへの搬入と搬出・車両事故からの救出 P. 447-451			
15	静脈路確保と輸液①目的～プロトコール P. 383～383	30	第16回～29回までのまとめ			

☆…専任教員による授業科目

科目名	救急医学特論	担当 教員	花田 邦和	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
国家試験過去問題を中心に解説し、より救急医学概論分野の理解力を深める。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト改訂第10版 P. 218～ 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	救急医療体制 P. 218～231		各学習課題について実習形式で行う。(1回：2コマ)	花田 邦和
2	災害医療体制，ストレスに関するマネジメント P. 232～244, 294～296			
3	消防機関における救急隊活動の流れ～救急隊活動時のコミュニケーション P. 245～259			
4	救急救命士に関連する法律～救急救命士の生涯教育 P. 260～275			
5	安全管理と事故対応～感染対策 P. 276～293			
6	第1回～第5回までのまとめと復習			
7	観察総論～全身の観察 P. 300～311			
8	局所の観察～神経所見の観察 P. 312～326			
9	緊急度・重症度判断～資器材による観察 P. 327～343			
10	第7回～第9回までのまとめと復習			
11	救急救命士が行う処置① P. 344～382			
12	救急救命士が行う処置② P. 383～418			
13	救急蘇生法 P. 419～427			
14	在宅療法継続中の傷病者の処置～傷病者搬送 P. 429～449			
15	第11回～14回までのまとめと復習			

☆…専任教員による授業科目

科目名	救急症候・病態生理学 I		担当 教員	大治 広美	連絡先	
対象学年	単位数				教員室	
1年次 後期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義					
講義の概要						
救急症候学について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P. 488～545 参考書：				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名	
1	意識障害①原因・随伴症候 P. 488-489	16	一過性意識消失と失神 ①定義～原因 P. 519-521	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。重要な項目については、レポートを用いて実施する。	大治 広美	
2	意識障害②判別～現場活動 P. 489-491	17	一過性意識消失と失神 ②緊急度・重症度・現場活動 P. 521			
3	頭痛①発症機序～性状 P. 492-494	18	胸痛①定義～原因疾患 P. 522-524			
4	頭痛②随伴症候～現場活動 P. 494-496	19	胸痛②緊急度重症度判断・現場活動 P. 524-525			
5	痙攣①定義～原因疾患 P. 497-499	20	動悸 P. 526-528			
6	痙攣②随伴症候～現場活動 P. 500-502	21	腹痛①発症機序～既往歴 P. 529-531			
7	運動麻痺①定義～随伴症候 P. 503-505	22	腹痛②随伴症候～現場活動 P. 531-533			
8	運動麻痺②判別～現場活動 P. 505-506	23	吐血・下血①定義～病態 P. 534-535			
9	めまい①定義～原因疾患 P. 507-508	24	吐血・下血②判別～現場活動 P. 536			
10	めまい②随伴症候～現場活動 P. 509-510	25	腰痛・背部痛①定義～痛みの部位と性状 P. 537-538			
11	呼吸困難①定義～原因疾患 P. 511-513	26	腰痛・背部痛②随伴症候～現場活動 P. 538-539			
12	呼吸困難②随伴症候～現場活動 P. 513-515	27	体温上昇①定義～分類と種類 P. 540-542			
13	咯血 P. 516-518	28	体温上昇②原因疾患～現場活動 P. 542-544			
14	第1回～13回までのまとめ試験①	29	第16回～28回までのまとめ試験②			
15	まとめ試験①解説	30	まとめ試験②解説			

☆…専任教員による授業科目

科目名	救急症候・病態生理学Ⅱ	担当 教員	大治 広美	連絡先
対象学年	単位数			教員室
1年次 後期	1単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義・実技			
講義の概要				
救急病態生理学について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P. 463～469, 477～486 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	ショック①総論 P. 463	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。重要な項目については、レポートを用いて実施する。	大治 広美	
2	ショック②循環血液量減少性ショック P. 464～466			
3	ショック③心原性ショック P. 467			
4	ショック④心外閉塞・拘束性ショック P. 468～469			
5	ショック⑤血液分布異常性ショック P. 469			
6	第1回～5回までのまとめと復習 P. 463～469			
7	心肺停止①総論 P. 477～479			
8	心肺停止②心肺停止に至る病態(不整脈・低心拍出量) P. 480			
9	心肺停止③心肺停止に至る病態(呼吸不全・その他) P. 480			
10	心肺停止④心肺停止に至る原因 P. 480～482			
11	心肺停止⑤心電図分類 P. 482			
12	心肺停止⑥心肺蘇生中の循環 P. 482～484			
13	心肺停止⑦心拍再開後の病態 P. 484～486			
14	第7回～13回までのまとめと復習 P. 477～486			
15	まとめ			

科目名		救急症候・病態生理学Ⅲ		担当教員	非常勤講師 (星野)	連絡先
対象学年		単位数			教員室	
2年次	前期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態		講義				
講義の概要						
救急病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。						
教科書、教材等				成績評価の方法		
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P.454～462, 470～476 参考書：				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名	
1	呼吸不全①総論 P.454-455	16	心不全⑦種類(右心不全～高拍出性心不全) P.461-462	各学習課題についてPCプレゼンテーションなどによる講義形式で行う。 救急病態生理を学ぶ上で必要な解剖・生理を含め講義を行っていく。	非常勤講師 (星野)	
2	呼吸不全②低酸素血症の発症機序(低換気) P.455-456	17	心不全⑧慢性心不全の急性増悪 P.462			
3	呼吸不全③低酸素血症の発症機序(換気血流比の異常) P.456	18	第10回～17回までのまとめ P.458-462			
4	呼吸不全④低酸素血症の発症機序(拡散障害とその他) P.456	19	まとめ試験② P.458-462			
5	呼吸不全⑤高二酸化炭素血症の発症機序 P.457	20	まとめ試験②解説 P.458-462			
6	呼吸不全⑥換気障害の種類 P.457	21	重症脳障害①総論 P.470			
7	第1回～6回までのまとめ	22	重症脳障害②発症機序 P.470-471			
8	まとめ試験① P.454-457	23	重症脳障害③一次性脳病変と二次性脳病変 P.471			
9	まとめ試験①解説 P.454-457	24	重症脳障害④頭蓋内圧亢進(頭蓋内圧の構成要素とその異常～内容積と内圧の関係) P.471-472			
10	心不全①総論(定義・原因疾患) P.458-459	25	重症脳障害⑤頭蓋内圧亢進(意識障害の機序～頭蓋内圧を上昇させる因子) P.472-473			
11	心不全②病態生理(心機能曲線・神経系と内分泌系) P.459-460	26	重症脳障害⑥脳ヘルニア P.473-475			
12	心不全③病態生理(循環の変化～拡張機能障害による心不全) P.459-460	27	重症脳障害⑦特殊な意識障害 P.476			
13	心不全④症候(低心拍出・肺うっ血) P.460-461	28	第21回～第27回までのまとめ P.470-476			
14	心不全⑤症候(体循環系のうっ血・循環系自体の所見) P.460-461	29	まとめ試験③ P.470-476			
15	心不全⑥種類(急性心不全～左心不全) P.461	30	まとめ試験③解説 P.470-476			

☆…専任教員による授業科目

科目名	救急症候・病態生理学IV (救急病態症候学)		担当 教員	非常勤講師 (清水)	連絡先
					教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 後期	2単位	60時間			
講義の概要					
<p>救急症候・病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p> <p>各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>					
教科書、教材等			成績評価の方法		
随時、配布する 教科書：救命士標準テキスト改訂第10版 P. 159～162, 454～544, 546～643, 665～675 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名
1	意識障害 P. 488～491	16	下痢・排尿障害	各学習課題について教科書を中心に、パワーポイントによる資料を配付し、PCプレゼンテーションによる講義や実習形式で行う。	非常勤講師 (清水)
2	頭痛 P. 492～496 痙攣 P. 497～502	17	心停止① P. 477-485		
3	運動麻痺 P. 503～506	18	心停止② P. 477-485		
4	めまい P. 507～510	19	気管挿管		
5	呼吸困難 P. 511～515	20	静脈路確保		
6	喀血 P. 516～518	21	1・2回まとめテスト		
7	一過性の意識消失と失神 P. 519-521	22	3・4回まとめテスト		
8	胸痛 P. 522-525	23	5・6回まとめテスト		
9	動悸 P. 526～528	24	7・8回まとめテスト		
10	腹痛 P. 529-533	25	9・10回まとめテスト		
11	精神障害 P. 676-686	26	11・12回まとめテスト		
12	腰痛・背部痛 P. 537-539	27	13・14回まとめテスト		
13	呼吸不全 P. 454-457	28	15・16回まとめテスト		
14	心不全 P. 458-462	29	17・18回まとめテスト		
15	ショック P. 463-469	30	19・20まとめテスト		

科目名	救急症候・病態生理学特論		担当 教員	大治 広美	連絡先
対象学年	単位数				教員室
3年次 後期	2単位	60時間			質問受付時間・場所等 随時・教員室
授業形態	講義				
講義の概要					
救急症候・病態生理について国家試験過去問題を中心に解説し、より救急病態生理学・救急症候学の理解力を深める。					
教科書、教材等				成績評価の方法	
教科書： 救急救命士標準テキスト改訂第10版 P. 454～544 参考書：				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名
1	救急病態生理学①呼吸不全 P. 454-457	16	救急症候学④運動麻痺 P. 503-506	各学習課題について実習形式で行う。(1回：2コマ)	大治 広美
2	救急病態生理学②呼吸不全 解説 P. 454-457	17	救急症候学⑤めまい P. 507-510		
3	救急病態生理学③心不全 P. 458-462	18	救急症候学⑥呼吸困難 P. 511-515		
4	救急病態生理学④心不全 解説 P. 458-462	19	救急症候学⑦喀血 P. 516-521		
5	救急病態生理学⑤ショック P. 463-469	20	救急症候学⑧一過性意識 障害と失神 P. 519-521		
6	救急病態生理学⑥ショック 解説 P. 463-469	21	救急症候学⑨胸痛 P. 522-525		
7	救急病態生理学⑦重症脳障 害 P. 470-476	22	救急症候学⑩動悸 P. 526-528		
8	救急病態生理学⑧重症脳障 害解説 P. 470-476	23	救急症候学⑪腹痛 P. 529-533		
9	救急病態生理学⑨心肺停止 P. 477-485	24	救急症候学⑫吐血・下血 P. 534-536		
10	救急病態生理学⑩心肺停止 解説 P. 477-485	25	救急症候学⑬腰痛・背部 痛 P. 537-539		
11	第1回～10回までのまとめ問 題 P. 454-485	26	救急症候学⑭体温上昇 P. 540-545		
12	まとめ解説 P. 454-485	27	第13回～26回までのまと め問題 P. 488-545		
13	救急症候学①意識障害 P. 488-491	28	まとめ解説 P. 488-545		
14	救急症候学②頭痛 P. 492- 496	29	総合模試 P. 454-545		
15	救急症候学③痙攣 P. 497- 502	30	総合模試解説 P. 454-545		

☆…専任教員による授業科目

科目名	内部障害学	担当 教員	吉村 光弘 山下 朗	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	1単位 15時間			
講義の概要				
症候学をはじめとする内科学的知識について学ぶ。呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、肝胆膵疾患、心疾患の基礎的な知識を修得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 内科学（医学書院） 参考書：			マークシート形式による試験（80％）と課題レ ポート（20％）を考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	症候学		各学習課題について教科書を中心 に講義形式で行う。	吉村
2	呼吸器疾患（1）			
3	呼吸器疾患（2）			
4	腎・泌尿器疾患			
5	消化器疾患			
6	肝胆膵疾患			
7	循環器疾患（1）			山下
8	循環器疾患（2）			

科目名	発達障害学	担当 教員	大治 広美	所属
				独立行政法人国立病院機構 七尾病院
対象学年	単位数			
2年次 前期	1単位 15時間			
講義の概要				
小児疾患の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 小児科学（医学書院） 参考書：			理学療法学科・作業療法学科教務内規に従う。 出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	新生児・未熟児疾患 (胎児期・新生児期・周産期)	各学習課題について教科書を中心 に講義形式で行う。		大治 広美
2	先天異常と遺伝病 (染色体異常・先天奇形・先天代謝異常)			
3	神経・筋・骨系疾患 (中枢神経疾患)			
4	神経・筋・骨系疾患 (てんかん・発達遅滞・脳性まひ)			
5	神経・筋・骨系疾患 (脊髄性疾患・末梢神経疾患)			
6	神経・筋・骨系疾患 (筋・骨・関節疾患)			
7	心身症・神経症			
8	重症心身障害児			

科目名	精神障害学	担当 教員	非常勤講師	連絡先
				教員室
対象学年	単位数	質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	1単位 15時間			
講義の概要				
精神疾患あるいは精神障害を有する患者の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 精神神経疾患ビジュアルブック（学研） 参考書：			マークシート形式による試験（80％）と課題レポート（20％）を考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法		教員名
1	精神医学の理解・精神機能の把握	各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。		非常勤講師
2	痙攣性疾患（てんかん）			
3	気分障害			
4	統合失調症			
5	神経症性障害			
6	ストレス反応および適応障害			
7	生理的・身体的要因に関連する障害			
8	成人の人格・行動障害			

科目名	神経筋障害学	担当 教員	橋井 美奈子	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	1単位 15時間			
講義の概要				
脳神経系に生じる各種疾患について概説する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 病気がみえる vol.7 脳・神経 (メヂックメディア) 参考書：			マークシート形式による試験（80%）と課題レポート（20%）を考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	神経系の構造と機能障害		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	橋井 美奈子
2	脳血管障害の総論			
3	脳梗塞、くも膜下出血（SAH）			
4	脳出血			
5	頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア			
6	水頭症			
7	顔面神経麻痺、Wallenberg症候群			
8	Brown-sequard症候群			

科目名	疾病救急医学特論		担当 教員	非常勤講師 (清水)	連絡先	
					教員室	
対象学年	単位数			質問受付時間・場所等 随時・教員室		
2年次 前期	2単位 60時間					
授業形態	講義					
講義の概要						
各種疾患（小児、高齢者を含む）の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。						
教科書、教材等			成績評価の方法			
教科書：随時、配布する			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
参考書：						
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名		
1	神経疾患（1）	16	高齢者疾患	各学習課題について教科書を中心に、パワーポイントによる資料を配付し、PCプレゼンテーションによる講義や実習形式で行う。	非常勤講師 (清水)	
2	神経疾患（2）	17	整形外科・泌尿器科			
3	呼吸器疾患（1）	18	精神疾患			
4	呼吸器疾患（2）	19	まとめ 試験			
5	循環器疾患（1）	20	特別講義：院外心停止			
6	循環器疾患（2）	21	神経疾患・呼吸疾患			
7	心電図	22	循環器疾患・消化器疾患			
8	心電図	23	内分泌・代謝疾患・泌尿器・生殖器			
9	消化器疾患(1)	24	皮膚疾患・熱傷			
10	消化器疾患(2)	25	皮膚疾患・熱傷			
11	内分泌・代謝疾患	26	特殊感染症			
12	血液・免疫疾患	27	血液・免疫疾患・筋・骨格筋疾患			
13	皮膚疾患・熱傷	28	眼・耳・鼻の疾患			
14	小児疾患	29	妊娠・分娩			
15	感覚器	30	まとめ			

科目名	外傷救急医学 I	担当 教員	花田 邦和	連絡先	
対象学年	単位数			教員室	
1年次 後期	2単位 60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態	講義・実技				
講義の概要					
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。					
教科書、教材等			成績評価の方法		
教科書：改定第2版 JPTECがイトブック(ヘルス出版)			筆記試験(40%)290点満点、技試験(40%)100点満点、授業態度・出席率等を考慮しその他出席率等を考慮して総合的に評価する。(20%)20点満点		
参考書：改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)			・筆記試験計算式 得点÷290×100×0.4=試験点数 ・実技試験計算式 得点×0.4=試験点数 合格基準：得点率60%以上。		
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名	
1	救急救命士と病院前救護	16 JPTEC⑨SMRの判断～第2報 P.98-110	各学習課題について教科書を中心に講義及び実技形式で行う。実際の現場写真などを提示し、想像力を育ませ、グループディスカッションなどを実施する。重要な資器材、手技などについてはレポート課題を設け実施。	花田 邦和	
2	疫学と外傷システム P.688-690	17 JPTEC⑩SMR P.123-154			
3	受傷機転①受傷機転とエネルギー P.691-694	18 JPTEC⑪四肢の骨折 P.174-176			
4	受傷機転②外傷の分類 P.694-697	19 実技③通報～全身固定			
5	受傷機転③主な受傷形態 P.697-701	20 実技④通報～第1報			
6	JPTEC①外傷の現状～意義 JP:P.3-10	21 実技⑤通報～第2報			
7	JPTEC②JPTECの活動～状況評価 JP:P.16-31	22 実技⑥シナリオステーション			
8	JPTEC③初期評価 JP:P.32-47 止血・気道確保・呼吸管理 P.112-122	23 実技⑦シナリオステーション			
9	実技①通報～初期評価	24 JPTEC⑫特殊な受傷機転 P.17-8183			
10	JPTEC④全身観察(頭部・顔面・頸部) P.48-62	25 JPTEC⑬小児～妊婦外傷 P.184-198			
11	JPTEC⑤全身観察(胸部) P.63-77 処置(開放性気胸～フレイルチェスト) P.156-161	26 JPTEC⑭現場トリアージ・医療機関選定 P.200-210			
12	JPTEC⑥全身観察(腹部) 処置(腸管脱出～穿通性異物固定) P.162-169	27 JPTEC⑮JPTECを取り巻く環境(ドクターヘリ・ドクターカー・消防組織とメディカルコントロー			
13	JPTEC⑦全身観察(骨盤～背面) P.78-89 処置(骨盤骨折)P.170-172	28 実技⑧振り返り			
14	実技②通報～全身観察	29 実技⑨スキルチェックJPTEC			
15	JPTEC⑧重点観察～継続観察 P.90-97	30 まとめ			

☆…専任教員による授業科目

科目名	外傷救急医学Ⅱ	担当 教員	玉村 豊和	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 前期	1単位 30時間			
授業形態	講義・実技			
講義の概要				
外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）P.702-732 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名	
1	外傷の病態生理①循環動態～急性期後の障害 P.702-704		玉村 豊和	
2	外傷の病態生理②損傷の治癒～創傷治癒に影響する因子 P.704-705			
3	外傷の病態生理③外傷に伴うショック（循環血液量減少性ショック） P.705-706			
4	外傷の病態生理④外傷に伴うショック（非出血性ショック） P.706			
5	外傷の病態生理⑤ショックに対する輸液 P.706-707			
6	外傷の現場活動 P.708-714			
7	第1回～6回までのまとめ P.702-714			
8	頭部外傷①疫学～病態 P.715-717			
9	頭部外傷②主な外傷 P.717-719			
10	頭部外傷③現場活動 P.719-721			
11	顔面・頸部外傷①疫学～主な外傷 P.722-724			
12	顔面・頸部外傷②現場活動 P.724-726			
13	脊椎・脊髄外傷①疫学～受傷機転 P.727-729			
14	脊椎・脊髄外傷②病態～現場活動 P.729-732			
15	第8回～14回までのまとめ P.715-732			

☆…専任教員による授業科目

科目名	外傷救急医学Ⅲ	担当 教員	玉村 豊和	連絡先
対象学年	単位数			教員室
2年次 前期	1単位 30時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
講義の概要				
<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト (へるす出版) P. 739～785</p> <p>参考書：</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	胸部外傷①疫学～主な外傷(～血胸) P. 733-735		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	玉村 豊和
2	胸部外傷②主な外傷(気管損傷～)～現場活動 P. 735-738			
3	腹部外傷 P. 739-742			
4	骨盤外傷 P. 743-746			
5	四肢外傷①疫学～主な外傷 P. 747-751			
6	四肢外傷②現場活動 P. 751-754			
7	小児・高齢者・妊婦の外傷①小児の外傷 P. 755-757			
8	小児・高齢者・妊婦の外傷②高齢者の外傷 ～妊婦の外傷 P. 757-758			
9	熱傷 P. 760-765			
10	化学損傷 P. 766-771			
11	第9回・10回のまとめ P. 760-771			
12	電撃傷・雷撃症 P. 772-777			
13	縊頸・絞頸 P. 778-780			
14	刺咬症(傷) P. 781-785			
15	まとめ			

☆…専任教員による授業科目

科目名		外傷救急医学(国家試験対策)		担当 教員	玉村 豊和	連絡先	
対象学年		単位数				教員室	
3年次	後期	2単位	60時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態		講義					
講義の概要							
外傷救急医学・環境障害・急性中毒学に関する範囲を国家試験問題を中心に解説を行う。							
教科書、教材等				成績評価の方法			
教科書： 救急救命士標準テキスト改訂第10版 P.688-839 参考書：				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
回数	学習課題			学習内容並びに方法	教員名		
1	疫学と外傷システムと受傷機転 P.688-690・691-701	16	化学損傷 P.766-771	各学習課題について教科書を中心に模試・講義形式で行う。	玉村 豊和		
2	外傷の病態生理 P.702-707	17	電撃症・雷撃傷 P.772-777				
3	外傷の現場活動 P.708-713	18	縊頸・絞頸・刺咬症(傷) P.778-786				
4	第1回～4回までのまとめ試験① P.688-713	19	第15回～19回までのまとめ試験③ P.760-786				
5	まとめ試験①解説 P.688-713	20	まとめ試験③解説 P.760-786				
6	頭部外傷 P.715-721	21	中毒総論・各論 P.788-806				
7	顔面・頸部・脊椎・脊髄外傷 P.722-732	22	第21回～22回までのまとめ試験④ P.788-806				
8	胸部外傷 P.733-738	23	まとめ試験④解説 P.788-806				
9	腹部外傷 P.739-742	24	異物・溺水 P.808-813				
10	骨盤外傷 P.743-745	25	熱中症 P.815-820				
11	四肢外傷 P.747-754	26	偶発性低体温 P.821-823				
12	小児・高齢者・妊婦の外傷 P.755-759	27	放射線障害 P.824-832				
13	第6回～13回までのまとめ試験② P.715-759	28	その他の環境障害 P.833-839				
14	まとめ試験②解説 P.715-759	29	第24回～29回までのまとめ試験⑤ P.808-839				
15	熱傷 P.760-765	30	まとめ試験⑤ P.808-839				

☆…専任教員による授業科目

科目名	環境障害・急性中毒学	担当 教員	花田 邦和	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	1単位 30時間			
講義の概要				
環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） P.788～839 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1	中毒総論① P.788-795		各学習課題について教科書を中心に講義形式で行う。	花田 邦和
2	中毒総論② P.788-795			
3	中毒各論① P.796-807			
4	中毒各論② P.796-807			
5	第1回～4回までのまとめ試験① P.788-807			
6	まとめ試験①解説 P.788-807			
7	異物 P.808-811			
8	溺水 P.812-813			
9	熱中症 P.815-820			
10	偶発性低体温 P.821-823			
11	放射線障害 P.824-832			
12	その他の環境障害① P.833-839			
13	その他の環境障害② P.833-839			
14	第7回～13回までのまとめ試験② P.808-839			
15	まとめ試験②解説 P.808-839			

☆…専任教員による授業科目

科目名		基礎演習		担当 教員	大治 広 美	連絡先	
対象学年		単位数			教員室		
1年次	前期	1単位	45時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態		実習					
講義の概要							
医療従事者、救急救命士としての礼節とコミュニケーション能力を身につける。 基礎的な医学的知識、スキルを身につける。 救急資器材等を使用し、模擬傷病者に対し実践できるよう基礎的能力を身につける。							
教科書、教材等				成績評価の方法			
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令） 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者） 救急活動マネジメント実践トレーニング（メディカ出版）				救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
回数	学習課題	回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名		
1	オリエンテーション 実技授業進行予定など コミュニケーショントレーニング	13	座学・実技 小児・乳児・妊婦に対する一次救命処置	各学習課題について教科書を中心に講義と実技をOSCE(客観的構造化臨床評価)形式で行う。	大治 広美		
2	実技 部隊運用訓練，訓練礼式①	14	実技 一次救命処置(成人)④復習				
3	実技 部隊運用訓練，訓練礼式②	15	スキルチェック 一次救命処置(成人)				
4	実技 部隊運用訓練，訓練礼式③	16	座学 ファーストエイド(異物窒息) 講義：異物窒息とは？，発見，通報，観察，処置				
5	実技 部隊運用訓練，訓練礼式④	17	実技 指拭法，背部叩打法，腹部突き上げ法，胸部突き上げ法，胸部圧迫法				
6	スキルチェック 部隊運用訓練，訓練礼式	18	座学 体位管理と保温				
7	座学 応急手当の目的と傷病者観察 状況評価～初期評価	19	実技 体位管理と保温(毛布法)				
8	実技 状況評価から初期評価の実技 傷病者の外見観察、反応、呼吸の確認	20	座学 徒手搬送 ボディメカニクスと方法				
9	座学 一次救命処置 心肺停止の疫学，心肺蘇生法	21	実技 徒手搬送				
10	実技 一次救命処置(成人)① 状況評価～CPR+AED	22	実技 用手的異物除去 状況評価～除去後の対応 CPR，継続観察				
11	実技 一次救命処置(成人)② 状況評価～蘇生後の継続観察と (回復体位と頭部後屈あご先挙	23	実技 異物窒息 復習				
12	実技 一次救命処置(成人)③ 機材を用いたCPRの質の評価	24	スキルチェック・まとめ 異物除去				

☆…専任教員による授業科目

科目名	応急処置 I		担当 教員	花田 邦和	連絡先 教員室		
対象学年				質問受付時間・場所等 随時・教員室			
1年次 前期	2単位	90時間					
授業形態							
講義の概要							
習得した知識や救急隊員（救急標準課程）として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。							
教科書、教材等				成績評価の方法			
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令） 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者） 救急活動マネジメント実践トレーニング（メディカ出版）				救急救命学科教務内規に従う。 出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
回数	学習課題	回数	学習課題	回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名
1	講義 ファーストエイド・状況 評価・SMRの考え方・傷 病者の観察	16	実技 外見観察と気道・呼吸の 評価と処置①(用手気道 確保とBVM)	31	座学 経鼻エアウェイ・経口エ アウェイ	各学習課題について教科書を中心に講義と実技をOSCE(客観的構造化臨床評価)形式で行う。講義終了後、レポート提出を行い、今後の課題と目標を明確化させる。	花田 邦和
2	実技 直接圧迫止血法(三角巾) ① 三角巾の使い方、前腕の 止血	17	実技 外見観察と気道・呼吸の 評価と処置②(酸素投 与・ポンペの取り扱い)	32	実技 経口エアウェイ①基本手 技		
3	実技 直接圧迫止血法(三角巾) ② 前頭部・頭頂部の止血	18	実技 循環の評価と処置 (脈拍・血圧、意識(JCS 桁)に関する観察)	33	実技 経口エアウェイ②救急隊 活動		
4	実技 関節圧迫止血 止血点止血法、止血帯・ ターニケットによる止血 法	19	実技 外見観察～初期評価ま とめ	34	スキルチェック 経口エアウェイ		
5	実技 状況評価～観察と止血処 置	20	座学 全身観察と重点観察	35	実技 経鼻エアウェイ①基本手 技		
6	実技 被覆処置(三角巾) 頭部、手指	21	実技 全身観察(皮膚、頭部、 顔面、頸部、胸部、背 部)	36	実技 経鼻エアウェイ②救急隊 活動		
7	実技 骨折の固定処置	22	実技 聴診器を使用した観察	37	スキルチェック 経鼻エアウェイ		
8	座学 外傷の受傷機転と頸椎保 護	23	実技 全身観察(腹部、鼠径 部、会陰部、四肢、手 指、足趾、爪)	38	座学 医療機関選定 救急隊活動(除細動プロ トコル)		
9	実技 頸椎保護(用手)、ネック カラー、ログロール	24	座学 バイタルサインの測定 呼吸数、脈拍数、血圧測 定	39	実技 救急隊活動 心原性心肺停止①除細動		
10	実技 バックボードを用いた脊 椎運動制限	25	実技 バイタルサインの測定 呼吸数、脈拍数、血圧測 定	40	実技 救急隊活動 心原性心肺停止②気道確 保デバイスの挿入		
11	実技 スクープストレッチャー を用いた脊椎運動制限	26	実技 意識の評価(JCS, GCS)	41	実技 救急隊活動 心原性心肺停止③気道確 保デバイスの挿入		
12	ファーストエイド 外傷 傷病者に関するアプロ ーチのまとめ	27	実技 体温、瞳孔、SpO ₂ 値測定	42	実技 救急隊活動 心原性心肺停止④気道確 保デバイスの挿入		
13	スキルチェック 外傷傷病者に対する ファーストエイド(止血)	28	実技・座学 心電図モニターの観察	43	実技 救急隊活動 心原性心肺停止⑤自動心 マッサージ器の使用		
14	座学・実技 観察総論とコミュニケーション	29	実技 意識のある傷病者への観 察のまとめと復習	44	実技 救急隊活動 心原性心肺停止⑥まとめ		
15	座学 初期評価	30	スキルチェック 傷病者接触から傷病者観 察	45	スキルチェック 除細動		

科目名		応急処置Ⅱ		担当教員	玉村 豊和	連絡先 教員室	
対象学年		単位数			質問受付時間・場所等 随時・教員室		
1年次	後期	2単位 90時間					
授業形態		実技					
講義の概要							
習得した知識や救急救命士として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。							
教科書、教材等					成績評価の方法		
教科書： 救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令） 参考書： 救急処置スキルブック（壮道者） 救急活動マネジメント実践トレーニング（MCメディア出版）					救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。		
回数	学習課題	回数	学習課題	回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名
1	座学 傷病者搬送	16	スキルチェック LMを用いた気道確保	31	座学 気管挿管の実際②(吸引, カブノメータ, ビデオ喉頭鏡)	各学習課題について教科書を中心に講義と実技をOSCE(客観的構造化臨床評価)形式で行う。 講義終了後、レポート提出を行い、今後の課題と目標を明確化させる。	玉村 豊和
2	実技 傷病者搬送①搬送資器材への収容方法(布担架・サブ)	17	座学 食道を閉鎖するタイプ	32	実技 気管挿管①基本手技		
3	実技 傷病者搬送②搬送資器材への収容方法(メーンストレッチャーへの収容)	18	実技 食道を閉鎖するタイプ①LT 基本手技	33	実技 気管挿管②基本手技 気管内吸引		
4	実技 傷病者搬送③ストレッチャーの曳航(CPR中の曳航含む)	19	実技 食道を閉鎖するタイプ②LT 実技試験に向けた訓練	34	実技 気管挿管③ビデオ硬性喉頭鏡		
5	実技 傷病者搬送③救急車内への収容	20	実技 食道を閉鎖するタイプ③LT 実技試験に向けた訓練	35	実技 気管挿管④ 実技試験に向けた訓練		
6	実技 傷病者搬送のまとめ	21	実技 食道を閉鎖するタイプ④LT 実技試験に向けた訓練	36	実技 気管挿管⑤ 実技試験に向けた訓練		
7	実技 救急隊活動 心原性心肺停止振り返り	22	実技 食道を閉鎖するタイプ⑤LT 実技試験に向けた訓練	37	実技 気管挿管⑥ 実技試験に向けた訓練		
8	座学 声門上気道デバイス(プロトコル, 喉頭周囲のタイプ)	23	スキルチェック LTを用いた気道確保	38	スキルチェック 気管挿管		
9	実技 喉頭周囲を覆うタイプ①(LM) 基本手技	24	座学 異物窒息に対する救急隊活動とプロトコル	39	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ①		
10	実技 喉頭周囲を覆うタイプ②(アイジェル) 基本手技	25	実技 吸引器の使用 喉頭鏡・マギール鉗子の取り扱い	40	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ②		
11	座学 指示要請と救急救命士報告	26	実技 器具を用いた異物除去①	41	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ③		
12	実技 喉頭周囲を覆うタイプ③基本手技反復訓練	27	実技 器具を用いた異物除去②	42	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ④		
13	実技 喉頭周囲を覆うタイプ④実技試験に向けた訓練	28	実技 器具を用いた異物除去③	43	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ⑤		
14	実技 喉頭周囲を覆うタイプ⑤実技試験に向けた訓練	29	スキルチェック 器具を用いた異物除去	44	救急隊活動 器具を用いた気道確保が必要な心肺停止傷病者へのアプローチ⑥		
15	実技 喉頭周囲を覆うタイプ⑥実技試験に向けた訓練	30	座学 気管挿管プロトコル 気管挿管の実際①(基本手技)	45	スキルチェック 異物窒息による心肺停止傷病者への活動		

科目名		救急救命処置 I			担当 教員	非常勤講師 (松林)	連絡先
対象学年		単位数				質問受付時間・場所等 随時・教員室	教員室
1年次	後期	2単位	90時間				
授業形態		講義・実技					
講義の概要							
習得した知識や救急救命士として必要な技術を病院前救護において実践できるよう基礎的能力を身につける。							
教科書、教材等					成績評価の方法		
教科書：		救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令）			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート、OSCE（客観的臨床能力試験）により総合的に評価する。		
参考書：		救急処置スキルブック（壮道者） 救急活動マネジメント実践トレーニング（MCメディカ出版）					
回数	学習課題	回数	学習課題	回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名
1	座学 静脈路確保プロトコル (心肺停止)	16	実技 薬剤投与③ 実技試験に向けての訓練	31	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動⑥	各学習課題について教科書や参考書を中心に、PCプレゼンテーションによる講義や実技形式で講義を行い、グループ内でのOSCE（客観的臨床能力試験）を取り入れ実施する。	非常勤講師 (松林)
2	座学 静脈路確保の実際	17	スキルチェック アドレナリン投与	32	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動⑦		
3	実技 静脈路確保①基本手技	18	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動①	33	スキルチェック 非心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動		
4	実技 静脈路確保②基本手技	19	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動②	34	座学 外傷活動について		
5	実技 静脈路確保③基本手技	20	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動③	35	実技 外傷救急現場活動①基本手技		
6	実技 静脈路確保④基本手技	21	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動④	36	実技 外傷救急現場活動②基本手技		
7	実技 CPAに対する静脈路確保①	22	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動⑤	37	実技 外傷救急現場活動①シナリオ		
8	実技 CPAに対する静脈路確保②	23	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動⑥	38	実技 外傷救急現場活動①シナリオ		
9	スキルチェック CPAに対する静脈路確保	24	心原性心肺停止傷病者に対する救急現場活動⑦	39	座学 ショックに対する輸液		
10	座学 薬剤投与プロトコル 薬剤投与の実際①	25	スキルチェック 心原性心停止傷病者に対する救急現場活動	40	実技 循環血液量減少性ショックに対する輸液①		
11	座学 薬剤投与の実際②	26	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動①	41	実技 循環血液量減少性ショックに対する輸液②		
12	実技 薬剤投与①基本手技	27	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動②	42	実技 循環血液量減少性ショックに対する輸液③		
13	実技 薬剤投与②基本手技(エビベン含む)	28	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動③	43	実技 循環血液量減少性ショックに対する輸液④		
14	実技 薬剤投与① 実技試験に向けての訓練	29	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動④	44	スキルチェック ショックを呈する傷病者に対する輸液		
15	実技 薬剤投与② 実技試験に向けての訓練	30	非心原性心肺停止傷病者に対する現場活動⑤	45	まとめ		

☆…専任教員による授業科目

科目名		救急救命処置Ⅱ		担当 教員	非常勤講師 (清水)	連絡先	
対象学年		単位数				教員室	
2年次	前期	2単位 90時間			質問受付時間・場所等 随時・教員室		
授業形態		講義・実技					
講義の概要							
総合シミュレーションに向けた接遇・基本手技の基礎を確実に身につけ、救急現場活動に生かせる技術習得を目標とする。							
教科書、教材等						成績評価の方法	
教科書：改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 参考書：PSLSガイドブック2015（へるす出版） PEMECガイドブック2023（へるす出版）						救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート、OSCE（客観的臨床能力試験）により総合的に評価する。	
回数	学習課題	回数	学習課題	回数	学習課題	学習内容並びに方法	教員名
1	実技 心肺停止傷病者に対する救急現場活動振り返り	16	座学 PSLSの概念と活動	31	救急活動⑮胸痛	基本手技	非常勤講師 (清水)
2	座学 ABCDEアプローチ	17	救急活動①意識障害	32	救急活動⑯胸痛		
3	座学 内因性傷病者へのアプローチと各種プロトコル	18	救急活動②意識障害	33	救急活動⑰動悸		
4	実技 基本活動①	19	救急活動③頭痛	34	救急活動⑱動悸		
5	実技 基本活動②	20	救急活動④頭痛	35	救急活動⑲腹痛		
6	座学 意識障害を呈する傷病者に対する救急現場活動	21	救急活動⑤痙攣	36	救急活動⑳腹痛		
7	座学 ブドウ糖投与のプロトコル 基本手技①	22	救急活動⑥痙攣	37	救急活動㉑吐血・下血		
8	実技 血糖測定	23	救急活動⑦運動麻痺	38	救急活動㉒腰痛・背部痛		
9	実技 ブドウ糖の投与①基本手技	24	救急活動⑧運動麻痺	39	救急活動㉓体温異常		
10	実技 ブドウ糖の投与②	25	救急活動⑨めまい	40	救急活動㉔産婦人科対応		
11	実技 ブドウ糖の投与③	26	救急活動⑩めまい	41	救急活動㉕産婦人科対応		
12	実技 ブドウ糖の投与④	27	救急活動⑪呼吸困難	42	救急活動㉖小児対応		
13	実技 ブドウ糖の投与⑤	28	救急活動⑫呼吸困難	43	救急活動㉗多数傷病者対応		
14	スキルチェック ブドウ糖の投与	29	救急活動⑬喀血	44	救急活動㉘多数傷病者対応		
15	座学 PEMECの活動と概念	30	救急活動⑭一過性意識消失と失神	45	スキルチェック 疾病に対する救急活動		

☆…専任教員による授業科目

科目名	救急車同乗見学実習	担当 教員	救急救命士 (消防等勤務)	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
1年次 後期	1単位 45時間			
授業形態	実習			
講義の概要				
臨床における救急救命士の役割を救急車同乗見学実習を通して包括的に体験し医療従事者としての基本的態度を学ぶ。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト (へるす出版) 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
スケジュール				教員名
<p>実習期間：1週間</p> <p><実習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の実習を行う。 3. 実習後オリエンテーション 4. 発表会 <p><実習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で指導者の監督下において見学を行う。 2. 報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 <p><成績判定></p> <p>指導者による評価と校内での発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。</p>				救急救命士 (消防等勤務)

科目名	救急車同乗体験実習	担当 教員	救急救命士 (消防等勤務)	連絡先
				教員室
対象学年	単位数			質問受付時間・場所等 随時・教員室
2年次 後期	1単位 45時間			
講義の概要				
<p>救急車同乗見学実習で得た知識や情意行動を活かす。 臨床における救急救命士の役割を救急車同乗体験実習を通して包括的に体験し医療従事者としての基本的態度を学ぶ。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト (へるす出版)</p> <p>参考書：</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>	
スケジュール				教員名
<p>実習期間：1週間</p> <p><実習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の実習を行う。 3. 実習後オリエンテーション 4. 発表会 <p><実習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で指導者の監督下において見学および処置を行う。 2. 報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 <p><成績判定></p> <p>指導者による評価と校内での発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。</p>				<p>救急救命士 (消防等勤務)</p>

科目名	救急車シミュレーション実習	担当教員	玉村 豊和	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 後期	3単位 135時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義・実技			
講義の概要				
救急車内の機材・装備を理解し、救急車内でスムーズに救急活動ができるようにする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～5	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅰ		各学習課題について講義と実技を行う。	玉村 豊和
6～10	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
11～15	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
16～20	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
21～25	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅰ			
26～30	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅱ			
31～35	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅰ			
36～40	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
41～45	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
46～50	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
51～55	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅰ			
56～60	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅱ			
61～65	心肺停止想定シミュレーション（溺水）			
66～70	まとめ			

科目名	臨床見学実習	担当 教員	救急救命士／ 看護師（病院 等勤務）	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
2年次 後期	2単位 90時間			
講義の概要				
<p>救急部門における救急救命士の役割を臨床見学実習を通して包括的に体験し医療従事者としての基本的態度を学ぶ。また、学内で修得した知識および技術が実際の臨床場面においてどのように活かされているのかを確認し、救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
<p>教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト （へるす出版）</p> <p>参考書：</p>			<p>救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。</p>	
スケジュール				教員名
<p>実習期間：2週間</p> <p><実習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で2週間の実習を行う。 3. 実習後オリエンテーション 4. 発表会 <p><実習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で指導者の監督下において見学実習を行う。 2. 報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 <p><成績判定></p> <p>指導者による評価と校内での発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。</p>				<p>救急救命士／ 看護師（病院 等勤務）</p>

科目名	臨床体験実習	担当 教員	救急救命士／ 看護師（病院 等勤務）	連絡先
				教員室
対象学年	単位数		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
3年次 前期	3単位 135時間			
講義の概要				
<p>臨床救急医療部門で実践されている技術および情意行動を体験実習をとおして確認し、修得する。また、臨床現場においてメディカルコントロールの重要性を理解し、的確かつ安全に応用できる実践能力を養う。その他、傷病者に対する適切な処置および接遇について体験実習をとおして学ぶ。</p>				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 改訂第10版救急救命士標準テキスト （へるす出版） 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
スケジュール				教員名
実習期間：3週間 <実習内容> 1. 実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で2週間の実習を行う。 3. 実習後オリエンテーション 4. 発表会 <実習課題> 1. 本校指定の臨床実習施設で指導者の監督下において体験実習を行う。 2. 報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 <成績判定> 指導者による評価と校内での発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。				救急救命士／ 看護師（病院 等勤務）

科目名	総合シミュレーション 実習 I	担当 教員	救急救命学科 各教員	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 前期	2単位 90時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義			
講義の概要				
学校敷地内、様々な場所にて外傷シミュレーション実習を行い、救急活動に活かす。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	外傷シミュレーション（特殊な受傷） I		各学習課題について実習形式で行う。	救急救命学科 各教員
4～6	外傷シミュレーション（特殊な受傷） II			
7～9	外傷シミュレーション（特殊な受傷） III			
10～12	外傷シミュレーション（小児外傷） I			
13～15	外傷シミュレーション（小児外傷） II			
16～18	外傷シミュレーション（小児外傷） III			
19～21	外傷シミュレーション（高齢者外傷） I			
22～24	外傷シミュレーション（高齢者外傷） II			
25～27	外傷シミュレーション（高齢者外傷） III			
28～30	外傷シミュレーション（妊婦外傷） I			
35～38	外傷シミュレーション（妊婦外傷） II			
39～40	外傷シミュレーション（集団災害） I			
41～42	外傷シミュレーション（集団災害） II			
43～44	外傷シミュレーション（集団災害） III			
45	まとめ			

科目名	総合シミュレーション 実習Ⅱ	担当 教員	救急救命学科 各教員	連絡先
				教員室
			質問受付時間・場所等 随時・教員室	
対象学年	単位数			
3年次 前期	2単位 90時間			
授業形態	講義			
講義の概要				
学校敷地内、様々な場所にて心肺停止シミュレーション実習を行い、救急活動に活かす。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。	救急救命 学科 各教員
4～6	内因性疾患シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
7～9	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
10～12	内因性疾患シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
13～15	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅰ			
16～18	内因性疾患シミュレーション（消化器）Ⅱ			
19～21	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅰ			
22～24	心肺停止想定シミュレーション（脳疾患）Ⅱ			
25～27	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅰ			
28～30	心肺停止想定シミュレーション（心疾患）Ⅱ			
35～38 Ⅰ	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅰ			
39～40 Ⅱ	心肺停止想定シミュレーション（消化器疾患）Ⅱ			
41～42	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅰ			
43～44	心肺停止想定シミュレーション（溺水）Ⅱ			
45	まとめ			

科目名	総合シミュレーション 実習Ⅲ	担当 教員	救急救命学科 各教員	連絡先
対象学年	単位数			教員室
3年次 後期	2単位 90時間		質問受付時間・場所等 随時・教員室	
授業形態	講義・実技			
講義の概要				
学校敷地内での様々な内容のシミュレーション実習を通して、各疾患に対する救急救命処置を理解し、隊の一員として、チームの中で活動できるようにする。				
教科書、教材等			成績評価の方法	
教科書： 随時、配布する 参考書：			救急救命学科教務内規に従う。出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	
回数	学習課題		学習内容並びに方法	教員名
1～3	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅰ		各学習課題について実習形式で行う。	救急救命学科 各教員
4～6	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅱ			
7～9	ドクターヘリ・ドクターカーの連携Ⅲ			
10～12	集団災害時の対応Ⅰ			
13～15	集団災害時の対応Ⅱ			
16～18	集団災害時の対応Ⅲ			
19～21	災害時のトリアージⅠ（1次トリアージ）			
22～24	災害時のトリアージⅡ（2次トリアージ）			
25～27	災害時のトリアージⅢ（まとめ）			
28～30	DMA Tとの連携についてⅠ			
35～38	DMA Tとの連携についてⅡ			
39～40	DMA Tとの連携についてⅢ			
41～42	総合応用シミュレーションⅠ			
43～44	総合応用シミュレーションⅡ			
45	まとめ			